

医療データサイエンス入門

[演習] 第1学年 後期 選択 1単位

《履修上の留意事項》毎回、各自のPCを必携のこと。授業では、毎回、各自のPCを使って演習をしますので、忘れずにPCを持参してください。

「医療データサイエンス入門」を履修していること。「医療データサイエンス入門」と「医療データサイエンス入門」を共に履修した学生には「数理データサイエンスAI教育プログラム 修了証」カードを交付します。

《担当者名》二瓶裕之（薬）

【概 要】

医療技術分野においても重要となる「数理・データサイエンス・AI」を使いこなせる技能を修得する。「医療データサイエンス入門」では、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(MDASH)」認定制度で指定された応用基礎コア「A I・データサイエンス実践」を扱う。模型都市を教材として使いながら、データエンジニアリングにおけるデータ収集・加工、学習、評価といった一連の流れを修得する。また、模型都市を対象とした「データ・A I活用 企画・実施・評価」の実践の場を通じて、数理・データサイエンス・A Iの活用における一連のプロセスの理解を深め、人や社会にかかわる具体的な課題の解決に活用できる能力を修得する。

なお、「授業内容および学修課題」に付記されている(3-9)は、数理・データサイエンス・A I（応用基礎レベル）モデルカリキュラムの学修項目の番号である。

【学修目標】

1) 臨床検査技師業務に必要とされる「数理・データサイエンス・A I」の知識と、それを活用する技能を身につけるために、MDASH応用基礎コア「A I・データサイエンス実践」を理解する

2) 数千件～数万件のデータを加工処理するプログラムを作成できる

3) 機械学習、深層学習、強化学習の基本的な概念を説明できる

4) AI技術（学習、認識、予測・判断、知識・言語、身体・運動）を活用し、課題解決につなげることができる

5) 複数のAI技術が組み合わされたAIサービス/システムの例を説明できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ニューラルネットワーク(NN)の構成	・ニューロン、シナプス：numpy, math ・パーセプトロン、重み係数・バイアス、活性化関数：if, def, return 【ニューラルネットワーク演習(1～3回目)】 模型都市に付置した人型模型の計測データや模型都市の環境データと、自ら実装したNNモデルを使いながら予測・判断を行う。	二瓶裕之
2	NNモデルの構築	・ビッグデータの収集 ・データ表現、データ収集：matplotlib, seaborn ・最小二乗法、損失：append, scatter, 【ニューラルネットワーク演習(1～3回目)】	二瓶裕之
3	予測・判断	・最小二乗法、損失：append, scatter ・One-hot データ、正規化：to_categorical, StandardScaler ・モデルの構築と可視化、過学習 ・予測値の可視化 【ニューラルネットワーク演習(1～3回目)】	二瓶裕之
4	ディープニューラルネットワーク(DNN)の構成(3-9)	・深層学習ライブラリ：TensorFlow, keras ・入力層・隠れ層・出力層：Sequential 【ディープニューラルネットワーク演習(4～6回目)】 模型都市に付置した人型模型の計測データや模型都市の環境データと、KerasによるDNNモデルを使いながら予測・判断を行う。	二瓶裕之

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
5	DNNモデルの構築(3-9)	・ 層の指定 : Dense, Activation, ReLU ・ モデルの構成 : model.summary ・ モデルの作成 : model.fit 【ディープニューラルネットワーク演習(4～6回目)】	二瓶裕之
6	予測・判断(3-9)	・ モデルの評価 : model.evaluate ・ モデルの可視化 : model.layers ・ モデルによる予測 : model.predict 【ディープニューラルネットワーク演習(4～6回目)】	二瓶裕之
7	畳み込みニューラルネットワーク(CNN)の構成と人体構造(3-9)	・ 人の視覚の経路、単純型細胞と複雑型細胞 ・ 畳み込みニューラルネットワーク ・ ベクトルと行列 ・ 畳み込み層、プーリング層 【畳み込みニューラルネットワーク演習(7～9回目)】 模型都市の人型模型や建築物の画像データと、KerasによるCNNモデルを使いながら画像認識技術のスキルを学ぶ。	二瓶裕之
8	CNNモデルの構築(3-9)	・ ビッグデータの収集 ・ モデルの構築と作成 ・ モデルの可視化と予測・評価 【畳み込みニューラルネットワーク演習(7～9回目)】	二瓶裕之
9	画像認識アプリの構築・運用(3-9)	・ AIの開発環境と実行環境 : ngrok, AuthToken ・ フロントエンドアプリケーション : streamlit ・ 画像認識アプリの開発 【畳み込みニューラルネットワーク演習(7～9回目)】	二瓶裕之
10	AI・データサイエンス実践(データエンジニアリング基礎)	・ 認識技術の活用事例 : cv2(OpenCV) ・ VR映像からの動画画像・静止画像収集 【AI・データサイエンス実践(データエンジニアリング基礎)演習(10～12回目)】 画像・動画画像処理ライブラリ(OpenCV)を使って、模型都市のVR映像から取得した動画画像や静止画像に対して輪郭抽出、特徴抽出、色検出などを行いながら、データ収集・加工、学習、評価といった一連の流れを修得する。	二瓶裕之
11	輪郭検出	・ カスケード分類 : CascadeClassifier、detectMultiScale ・ エッジ検出 : Canny ・ 直線検出 : HoughLines ・ 円検出 : HoughCircles ・ 動画画像(MPEG4)からの検出 【AI・データサイエンス実践(データエンジニアリング基礎)演習(10～12回目)】	二瓶裕之
12	特徴抽出・色検出	・ 特徴抽出 : AKAZE ・ 特徴点マッチング : drawMatches ・ 色検出 : cvtColor ・ 動画画像(MPEG4)からの抽出 【AI・データサイエンス実践(データエンジニアリング基礎)演習(10～12回目)】	二瓶裕之
13	AI・データサイエンス実践(データ・AI活用企画・実施・評価)	・ 物体検出 : YOLO ・ VR映像からの動画画像・静止画像収集 ・ アノテーション : LabelImag, YAML	二瓶裕之

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		【A I・データサイエンス実践（データ・A I活用企画・実施・評価）演習(13～15回目)】 物体検出ライブラリ(YOLO)とアノテーションツール(LabelImg)を使って、模型都市のVR映像から取得した動画像や静止画像に対して物体検出を行いながら、数理・データサイエンス・A Iの活用における一連のプロセスの理解を深める。模型都市から得られる実データを使用することで、データ活用に取り組むまでの前処理に係る労力を実感するなど「手触り感」も含めて学修する。また、4～5名程度の履修学生がグループになってアノテーションを行って、グループ毎の観点から物体検出モデルを作り、最後に、オンライン上で、各グループで制作した物体検出映像を発表し合う。	
14	AIシステムの開発、テスト、運用	・モデルの構築：yolov5/train.py ・静止画像からの物体検出：yolov5/detect.py ・動画像からの抽出：yolov5/detect.py 【A I・データサイエンス実践（データ・A I活用企画・実施・評価）演習(13～15回目)】	二瓶裕之
15	AIシステムの品質、信頼性	・品質の検証 ・信頼性の検証 ・オンライン発表 【A I・データサイエンス実践（データ・A I活用企画・実施・評価）演習(13～15回目)】	二瓶裕之

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

授業参加態度30%と毎回(15回)の授業で作成する課題の評価を70%で評価する。

【教科書】

本学DX推進サイト (<https://dx.hoku-iryo-u.ac.jp/>) に公開している資料を使用する

東京大学 数理・情報教育研究センター (http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html) に公開されているリテラシーレベル教材と応用基礎レベル教材も使用する。

【備考】

- 学修教材（授業資料）の配信、学修課題の提示
 - Google オンラインアプリケーションを利用して学修課題を提示する。
- 授業に関する学生相互の意見交換やグループ学修の実践
 - 学生相互の意見交換を目的にGoogleオンラインアプリケーションを活用する
- 授業時間中にその場で学生の理解度を把握する技術の活用
 - Google Formを活用し、授業時間中にその場で学生の理解度を把握する

【学修の準備】

・情報処理室、もしくは、自分で所有しているパソコンを利用して、授業の前にAIエージェントによる事前学修コンテンツを視聴し、内容を理解しておくこと（XR技術を活用した事前学修80分）

・情報処理室、もしくは、自分で所有しているパソコンを利用して、授業の後にAIエージェントによる事後学修コンテンツを視聴し、授業で作成した課題を再度作成するなどの復習を行うこと（XR技術を活用した事後学修80分）。

【ディプロマポリシーとの関連】

臨床検査に必要な知識と技術を修得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能

力を身につけている。